

# 本県沿岸における2025年の藻場の状況

## 漁場環境部



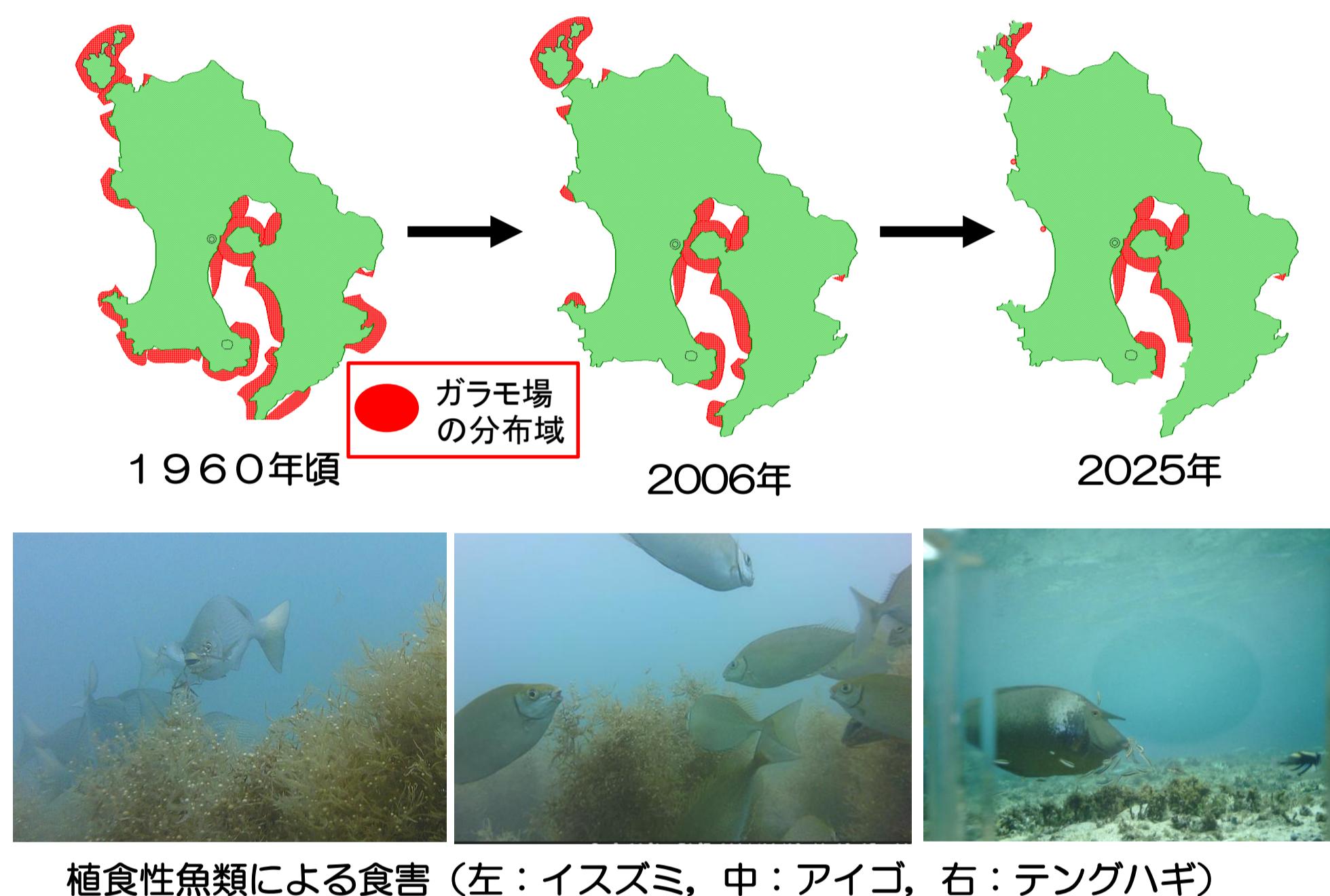
### 概要

魚介類の産卵場や生息場、CO<sub>2</sub>吸収などの機能を有している藻場ですが、植食性魚類による食害が藻場の形成・回復を妨げる主な要因となっています。

2025年に行った調査では、例年より海藻が繁茂している箇所が確認され、冬季の水温が過去5年間で最も低かったことから、植食性魚類の摂餌活性が低く、食害が少なかったと推察されました。一方で、衰退している箇所も確認され、長期的な高水温化による影響が一因であると推察されました。

### [本県の藻場の現状と減少要因]

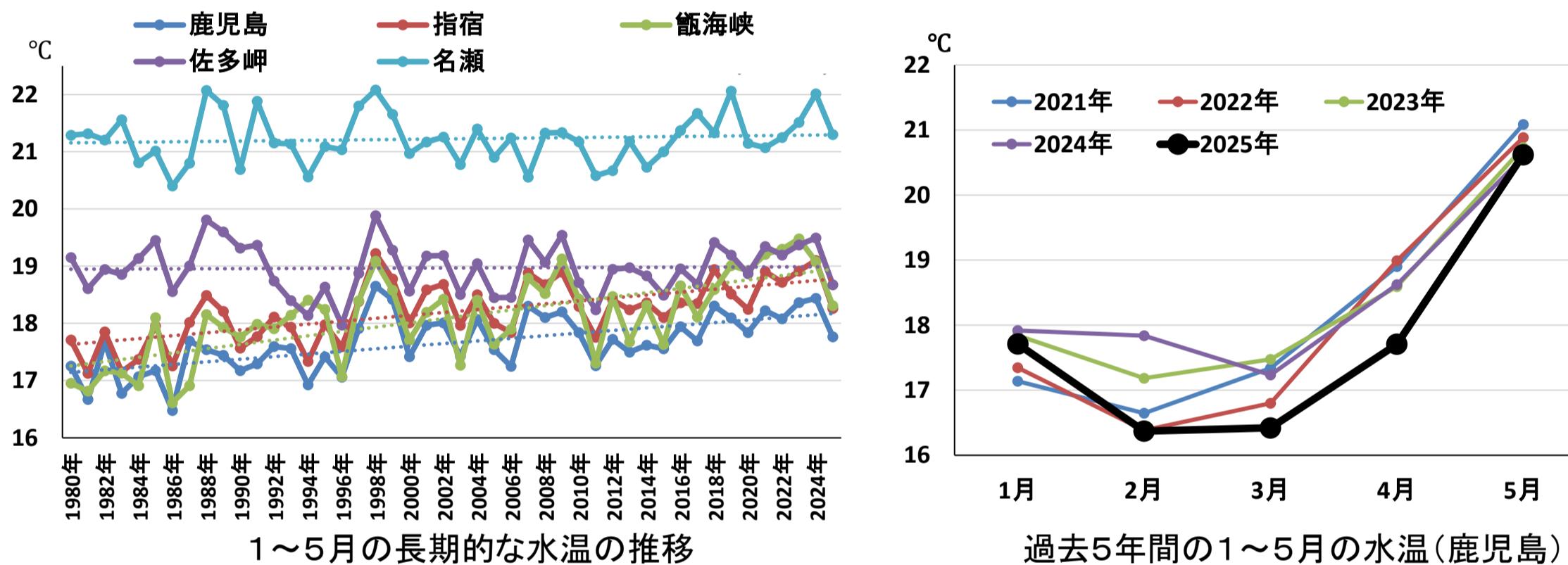
- ・外海域の藻場は一部を除き減少・消失
- ・藻場形成の阻害要因は主に植食性魚類による食害



### [長期的な水温の推移と2025年の水温]

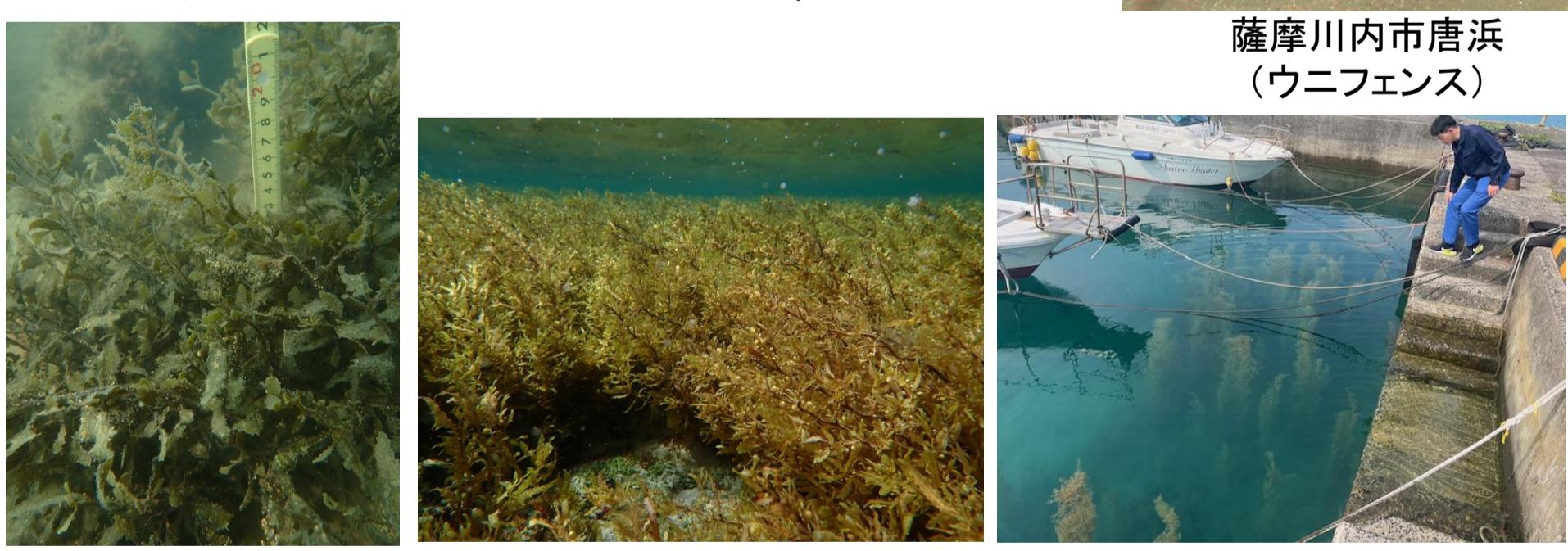
- ・ホンダワラ類が伸び始めてから繁茂する1~5月の平均水温は1980年以降上昇傾向
- ・2025年の2~4月の水温は過去5年間で最低
- ・代表的な植食性魚類であるアイゴやノトイヌズミは水温が低くなるほど摂餌活動が低下することが知られており、2025年は例年より食害が少なかったと推察

アイゴ：20°C以下で減少、15°C未満で停止（山内ら、2006）  
ノトイヌズミ：16°C以下で減少、12°C以下でほぼ停止（野田ら、2016）



### [例年より繁茂していた箇所]

- ・薩摩川内市唐浜(藻場造成実施地域)：2024年は藻場が形成されなかったが、小規模ながら藻場が形成
- ・いちき串木野市羽島：2024年は10cm程度だったものが20~30cmまで伸長
- ・奄美市笠利町佐仁：2018年以来、7年ぶりに藻場が形成
- ・奄美市龍郷町番屋：ここ数年伸長していなかったマジリモクが繁茂

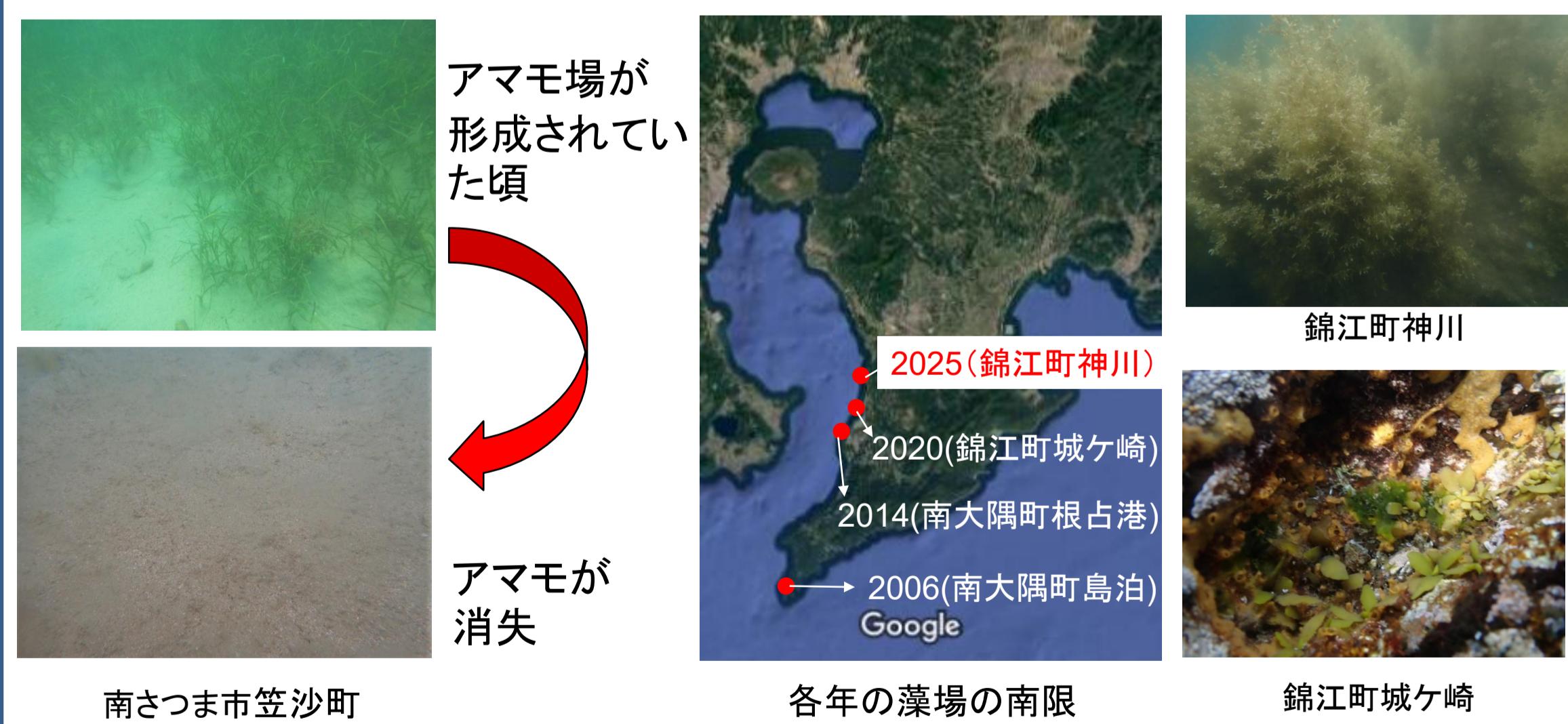


いちおし

2025年に行った調査では、漁業者が継続的に藻場造成活動を実施している地域や、ここ数年確認されていなかった箇所で藻場の形成が確認されました。継続的な藻場造成活動は重要であり、条件が整えば藻場が形成される可能性は十分あると考えられました。

### [長期的な高水温化を受けて衰退していた箇所]

- ・南さつま市笠沙町では2024年まで確認されていたアマモが消失
- ・桟敷島周辺では2018年まで藻場が形成されていたが、2019年以降形成されていない。
- ・大隅半島側の藻場の南限は、年を経るごとに北上
- ・錦江町城ヶ崎では2020年はヒジキによる藻場が確認されていたが、2025年は伸長しておらず、2025年の南限は錦江町神川



キーワード  
藻場、植食性魚類、食害、高水温化、継続的な藻場造成活動

